

# ぼくと母のねがい

## 詩

緑ヶ丘小 六年

佐々木 秋男

行けなかつたのだからか  
たおれて一昼夜もち  
死体となって引きあげられた  
お父さん

だれにうったえようお父さん  
まっ黒いあせとあぶらの労働者  
組合を守りつづけたお父さん  
炭鉱合理化・増産主義が  
保安をおろそかにさせたのか  
組合分裂のそのすきに  
起つた事故ではなかつたか

これから先のぼくと母に  
よろこびの目も  
よろこんでくれる父はない  
悲しみの夜を  
悲しんでくれる父はない  
会社があつた父のいのち  
組合分裂があつた父のいのち  
父のいのちの前に  
怒りのなみだがこみあげる

組合よなげ団結しないのだ  
会社は保安に力を入れて  
再び起すなさいがいを  
明るい安全職場ができるまで  
組合と会社で日本全体で  
三川鉱を建て直すその時に  
父のうらみは晴れる  
ぼくと母の願いはそのことだ

### 詩について

お父さんを返しておくれ  
一しゅん早く逃げられたら  
もし毒ガスと気がついていたら  
救援隊がもう少し早く

右の時、去る一・九集  
会の時、集会実行委員長の  
吉田一彦地評会長が読ま  
げた作品。あの当時のも  
のである。

なお吉田一彦地評会長は  
その際この詩に託して次のよ  
うに訴えた。

この子が詩で訴えているよ  
うに、七年前に起きたあの  
災害は三井の生産第一主義、  
人命軽視による惨事だった。  
その三井を中心とするわが



その日の体育館。仍く  
者の命を納めた棺が  
並んでいる。非情だ。

# 現状に黙っておれず 固めたこのうしろ楯

荒尾四小CO守る会会長

小里 透さん

私達は「三池CO守る会」を  
二年前からつづけてがんば  
てきました。  
私達は三井が、あの爆発以  
来CO患者と遺族をどう扱うか  
「このまま見過ごせんと、労働  
なるに違いないのですから」

そこで守る会を築き上げまし  
た。はじめ、純粋に市民だけで  
五十二名でスタートしたのが、  
今ではこれまた市民だけで百六  
十名。皆さんの、立派なうしろ  
楯になっていきます。  
皆さん、皆さんのうしろに地  
域住民もこのように組織されて  
ついでに力を借し、闘って  
もらいたい。力になる決意で  
す。

でがんばった。もうダメだと書  
いて死んでいた人の顔が、いまも  
忘れられない」  
ガス検定もやらす  
にマイト操作とは  
C 「話ばかりけど、今日脱  
衣所で斜坑道の当番が話している  
のを聞いたが、斜坑道当番がまた  
二名減らされるという話だが……」  
E 「いまの係員はどうじゃろ  
か。四山鉱では立入禁止の柵を越  
えて係長が、いっぺんに二人も死  
んでしまふし、今日三川鉱の二十  
六鉱では宮本係員が、現場に着  
たらすぐマイトを作りだし、切羽  
の天井点検もガス検定もしない」  
F 「いまの係員は、だれもが

## 思い走させたあの日の記事

労働者屈辱の日とされている三川鉱大爆発の日——一・九も七周年を迎えて、三池の全職場は終りを新にした。それが各職場新聞に反映して、各新聞が特別な記事をかかげた。中でも三川指導部第二分会新聞「まっ若」(NO.5、十一月七日発行)の記事は、当時をいきいきと思ひ起こさせるものだった。その全文を紹介しよう。

### かあちゃん、さようなら

### 八時まで頑張ったよ

### 白ボケで書かれていた遺書

A 「所用で高田町に行っていたが、起されて夕方六時十五分ごろ三川鉱にかけつけて、救助のため入坑した。第二斜坑道をさがしたが、道中は水で洗われ、レールが二メートルもずらぶらぶらしていた。坑底につくと、口の変電所が爆発したというので、夢にも思わなかった」

C 「夜の七時のニュースでは三十八人死者がでたと聞いていたが、炭じん爆発などいまの炭鉱ではあり得ないことだと信じていたので、夢にも思わなかった」

D 「当時自分は丙方だったのだから、その夜三番方の出だから獲て

見たときまでは生きていたのに……」

E 「坑底で死体を確認しようとしたが、口に泥水をくわえたりして、それがだれだかさっぱりわからなかった」

G 「会社は、当時入坑者の数もはつきりつかないが……」  
D 「宮浦連絡坑道にはまだ生きてうめいている人が五十八人、はいはいが、救助が遅れたため、その人たちは皆死んでしまったことをあとで知った。私は、上層三十六鉱のベルトの上で、白ボケでかあちゃんさようなら。八時半

### 炭鉱

### 夢はいつひらく

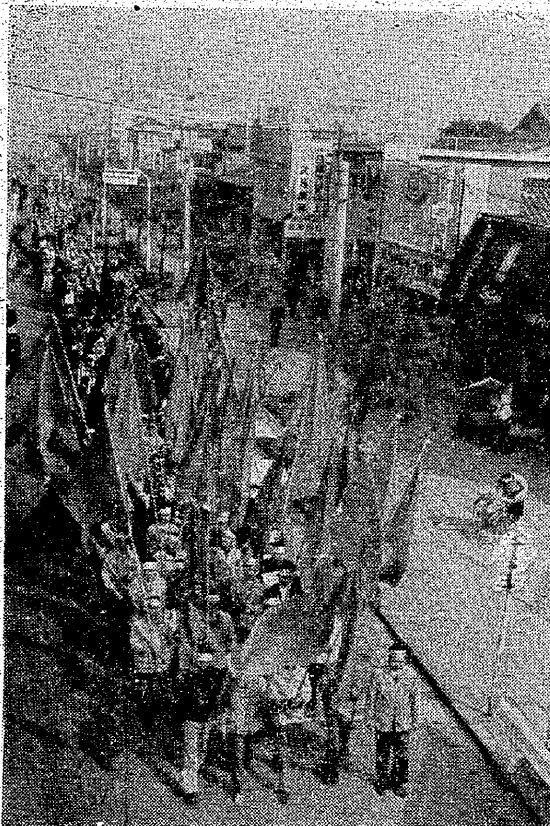
(一) 「夢は夜ひらく」のフジ  
どうたつて下さる。

(二) 十五、十六、十七日  
金のあふるのは三日間  
あまりに賃金が安すぎ  
夢はいつひらく

(三) きのう落盤きょう陥破  
あすは鉱車がPCC  
事故は毎日続いている  
夢はいつひらく

(四) 生産ばかりをがなり立て  
保安設備もそこそこ  
口をきばかりの対策じゃ  
夢はいつひらく

これは三川指導部第二分会新聞  
「まっ若」から紹介しました。



11・9集会後のデモ行進